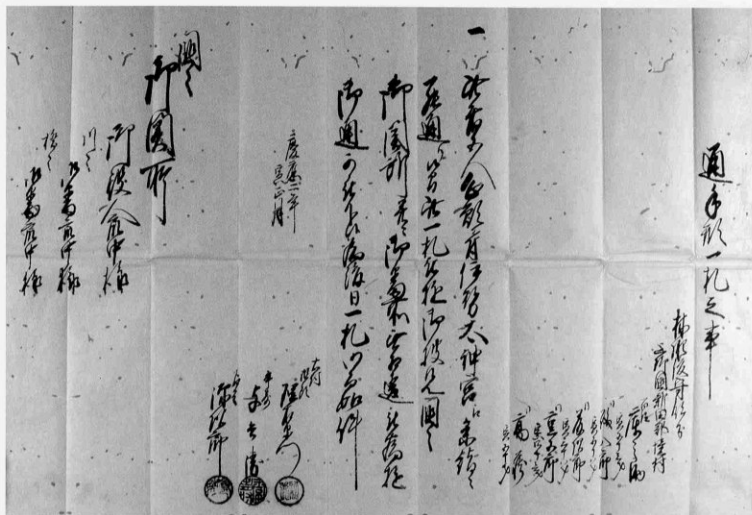


お伊勢参り



この史料は、新田郡境村（現境町）の5名が伊勢神宮参拝に出掛けた際の通行手形です。木札にはさんで、紛失しない配慮がうかがえます。

庶民の伊勢神宮への参拝は、鎌倉時代に神官が御師として諸国を巡回して信仰を広めたことに始まります。江戸時代には、参詣のため各地に講が組織されました。

伊勢参宮の旅は、農閑期の12月から4月上旬にかけてが多く、長野の善光寺や江戸見物などを楽しみながら帰村する信仰と物見遊山を兼ねた大旅行でした。

（参考資料）『群馬県史』通史編6 771～778頁

通り手形（一札の事）

林肥後守領分

上野国新田郡境村

百姓 庫之助

寅五十三才

同 磯八郎

同 藤次郎

寅三十八才

同 重五郎

寅四十一才

同 高藏

寅五十才

一この者五人、心願に付き、伊勢太神宮へ参詣に罷り通り候間、この一札御披見遊ばされ、国々御園所並びに御番所相違なく御通し遊ばされ下さるべく候、後日のため一札仍つて件の如し

右村

慶応二年 組頭 理右衛門

寅正月 年寄 与兵衛

名主 弥次郎

国々

御園所

御役人 衆中様

川々御番衆中様

橋々御番衆中様